

# 東洋農機 中国へ100機販売

## 道内最大規模の輸出量に



山田政功  
社長

東洋農機(帯広市西22北1、山田政功社長)は、自社製造農機の中国輸出を始めた。耕起を行うプラウ、ビートハーベスターなど約100

機を、製糖・でんぷん工場を持つ大手食品加工企業(本社北京)に販売している。輸送地は河北省と内モンゴル自治区で、販売額は少なくとも計

1億円とみられる。道内農機メーカーとしては最大規模の輸出量となる。食料不足を懸念した中国が、農作物増産に踏み切った

ことが背景にある。

東洋農機では以前から社員を派遣して、現地の農業事情や市場の調査に着手。商社を通じ契約を締結した。販売農機はプラウ、薬品を散布する

スプレーヤー、ビートハーベスターが主で、同企業が持つ農地などで、ビート、イモ類の栽培に活用される。

同社は今後も年間4回ほど定期的に社員を現地に派遣し、農機にかかわる人材の育成や、機械メンテナンスを行

い、長期的な信頼関係構築を図る。同社が海外で大規模販売を行うのは約10年前のペル輸出以来。

同社では「食、農を取り巻く環境が変貌(へんぼう)する中、新たなパートナーを見つけた。信頼を得られ、うれしい」(大橋敏伸常務)としている。同社は農業用機械製造、販売が主力。資本金は1億8000万円。2008年1月期の売上高は25億5800万円。(丸山一樹)